

事務事業評価資料

施策名	肉用牛振興対策			所管部局課名	農政環境部農林水産局畜産課					
事業名	但馬牛増頭特別対策事業 (但馬牛増頭促進事業)			担当者電話番号	肉用牛係 内線4087					
事業目的	平成22年度但馬牛繁殖雌牛18,000頭の達成									
事業内容	市町等が行う但馬牛繁殖雌牛の導入経費の一部を助成 補助対象者 市町・農協等 補助対象経費 導入経費等の1/2以内(40千円以内/1頭)					事業開始年度	平成18年度			
事業に要するコスト	区分	平成20年度決算額			平成21年度当初予算額			平成22年度当初予算額		
	事業費	(16,000千円) 16,000千円			(16,000千円) 16,000千円			(16,000千円) 16,000千円		
	人件費	3,388千円	従事人員 0.4人	3,344千円	従事人員 0.4人	3,282千円	従事人員 0.4人			
	総コスト(+)	19,388千円	従事人員 0.4人	19,344千円	従事人員 0.4人	19,282千円	従事人員 0.4人			
事業の目標	平成22年度但馬牛繁殖雌牛18,000頭				[目標設定理由] 但馬牛子牛の安定生産を図るため					
目標の達成度を示す指標	指標名	目 標		20年度実績	21年度見込み	22年度目標	達成率(%)			
		目標値	年度				H20	H21	H22	
	但馬牛繁殖雌牛頭数	18,000頭	22年度	15,500頭 (48千円)	16,750頭 (15千円)	18,000頭 (15千円)	86.1	93.1	100.0	
評価結果	必要性	・繁殖雌牛頭数は、高齢化や小規模零細経営、子牛価格の低迷等を理由に、平成6年度をピークに減少の一途をたどってきた。 ・安定的に但馬牛子牛を生産するためには、20,000頭程度(昭和50年代後半から平成10年頃までの水準)の繁殖雌牛が必要である。その中間目標として、平成22年度に18,000頭を達成する必要がある。								
	有効性	・事業開始前(平成17年度)の繁殖雌牛頭数14,500頭に対し、平成21年度は16,750頭までの増頭が見込まれており、繁殖雌牛の導入等の経費の一部を支援する当事業の有効性が認められる。								
	効率性	・JA、市町等から構成される地域増頭戦略会議が把握している農家の増頭計画と連動して事業を実施している。また、農協等が行う但馬牛増頭のための預託・導入等にかかる経費を助成(上限40千円/頭)し、増頭へのインセンティブを与えるなど、効率的な事業展開を図っている。								
	民間・市町との役割分担	・JA、市町等から構成される地域増頭戦略会議が農家の増頭計画の策定支援等を行う一方、県は事業が円滑に利用されるよう助言・支援する等の役割分担を図っている。								
	受益と負担の適正化	・繁殖雌牛の導入には、1頭あたり450千円程度必要である。県はJA等組織と同等(上限40千円/頭)の支援をしているが、導入費用の大半は受益者である農家が負担している。 ・なお、当事業の補助単価40千円/頭は、全国団体である(独)農畜産業振興機構が実施している同様の事業と同額である。								
方向性	新規	拡充			継続		実施手法の見直し			
	廃止	縮小	統合	凍結(休止)		延長	終期設定			
実施手法の見直し内容	市町移譲	民間移譲	民間委託	PFI	負担割合変更	事務改善	その他			
説明	当初計画どおり、繁殖雌牛18,000頭の達成目標年である平成22年度まで事業を継続する。									